
快晴時々雨

黒崎しのぶ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

快晴時々雨

【Zコード】

N1030N

【作者名】

黒崎しのぶ

【あらすじ】

金管バンド部の部長と副部長は、実は、あの有名な指名手配犯！？コミカルな手口で鮮やかなまでに犯罪を犯したり悪人を裁いたり……

某田舎のとある小学校 - - - -

北側の校舎の二階の端、グロッケンやトライアングルなどの音楽楽器が大量に置いてある

音楽室から、滑らかなバラードが鳴り響いていた。

この音楽を奏でているのは、40名ほどのこの学校の小学生たち。トランペット、トロンボーン、サックス（ソプラノ、アルトのみだ）、アルトホルン、ホルン、フルート、パーカッションの楽器があり、其々5～8くらいの人数だ。

その中でも、一際目立つ楽器を、この小学校で一人しか弾けない楽器を演奏している少女がいた。

ソプラノサックスを演奏している、かみやのやみ加富希は、この金管バンドの部長をやつている。

頭脳明快、容姿端麗な、小6の彼女は、圧倒的な推薦で、部長になつた。

頭が切れるだけでなく、一緒にいて楽しいと評判の希は、かなりの人気者だ。

部長がいるところとは、副と名のつゝ部長、つまりは副部長もいふことになる。

サックスという木管楽器がありながら、吹奏楽部ではなく、金管バンド部と名乗り続けるのは、この俱乐部のプライドだ！と、副部長で、トロンボーンのパートリーダーで、日本語能力の少し足りないナルシストな希とこの物語の主人公の玖渚由貴は言っている。

希と由貴は、小2のとき偶々席が隣になつたのがきっかけになり、彼女らの付き合いが始まった。性格が似ていることや、お互いに足りないことを補ってくれる存在が、後押しし切つても切れない仲になつた。

由貴はそこまで頭はよくないものの、それを補うるか高い身体能力がある。

サッパリ且アッサリとし、周りの人は気にしない性格の癖に、潔癖症で、ナルシストというよくわからない性格などこれが面白いと、希は思つ。そしてより一層、愛しく思う。

希は、足りないものがない、というか欠点がないという完璧さがありながら

それでいて誰にも優しく、自恋しないところが、由貴は羨ましく思う。

そして、ずっと傍にいたいと感じれる。

始めてあつたその日から、その思いは、お互い変わらない。信じれる存在、守りたい存在、傍にいてほしい存在 - - - すべてに当てはまりまるくほほび、大好きだ。

羞恥という感情を全く持つていの由貴は、

「好きだ！」とか「新婚旅行どこ行く？」

などの言葉を口にしてこらのだった。

最後に長く、 静かな和音が流れる。

指揮の女性、 嘉村歩美が、 手を絞り、 音を切る合図を出す。

その瞬間、 教室は静寂に包まれる。

思わず息を飲むような、 神聖な、 穏やかな、 バラードにふさわしい
終わりだった。

全く、今日は最悪だ。

獲物逃しちまうし、銃弾が頭掠つたし、サツに見つかまつし……

頭に包帯を巻いた女性が一人、田んぼの脇の道を歩いていた。

鋭く吊り上がつた眼は、金色に輝き眩いほど光つていて。

引きしまつた細身の体、腰まで伸びた赤みのかかつた黒い髪。

ここまで完璧な美人なだけに目つきの悪さは異様に目立つてしまつ。

頭に巻かれた包帯を気にしながら、ポツリポツリと文句をこぼす。

「つたく、あのクソガキどもはよお、どこ行きやがつたんだ。仕事
ほっぽつてのうのうと……

第一由貴がやる仕事つて危険すぎねえか？リンの野郎どんだけ由貴
をこき使つてんだよ。

まあ、あのパワー馬鹿ならこんなことかるべからずちまつんだろ
うけど……」

「だあーれがパワー馬鹿だあ？」

最高の笑顔と最高の殺氣で登場した少女、由貴。

いつの間にいやがつた。気配消すのあたしよりつまくねえか。

そんな感情がこの女性を支配していた。

コイツは天性の才能がある。そう思つてはいるものの、如何しても
苛立ちを覚えてしまう。

「テメ 以外いるか、脳味噌まで筋肉でできんじゃねえの？」

挑発するように指をくい、と曲げながら言つ女性、こと姉さん。

基本怒りの感情は表に出さない由貴も頭に来たらしく、米神あたりにうつすら青筋が浮かび、頬が引きつっていた。自分のことをけなされるのを何よりも嫌う由貴は（ナルシジだから）怒りのあまり、笑顔になつていた。勿論目は笑つてないが。

「うるさい！……ってあれえ、頭の傷どうしたの、あ、もしかして僕宛に来た依頼をやつたらへマしちゃつて怪我しちやつたのか、そつかそつか、『あの程度』の仕事も姉さんはできないのかあ……へえ、僕はあの程度のことなら毎日やつてるのに……やっぱ僕だから？僕つて実は凄かつたり？」

「いい度胸してんな、この傷はぐ・う・ぜ・ん！だ！いつもはこんなへマしねえだろうが。てめえの目は節穴ですか、てかあ？」

売り言葉に買い言葉。

このくらい、日常茶飯事である。
馬が合うのか合わないのか、この一人は氣づけばいつもケンカしている。組織の中でも最悪の組み合わせと、結構有名だ。十一歳にしては口が達者な由貴が、大体勝つが。

由貴のナルシスト発言には突つ込む氣が失せる。言い返す氣もしないほど、自分が大好きなのだ。

二人がつばを飛ばさんばかりの勢いで、言い合いを始める。

ここだけ見れば、それは仲のいい姉妹のよう。とても微笑ましい光景だ。二人の間を行き交っている言葉を聞かなければ、だが。刺々しい言葉が彼方此方から飛んでいる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1030z/>

快晴時々雨

2011年12月5日20時46分発行